

平成31年度 日野市立仲田小学校経営重点計画				自己評価シート				令和2年3月公表							
★学校教育目標								★重点計画の概要							
◎すすんで学ぶ子								○思いやりのある子							
○からだをきたえる子								○最後までやりぬく子							
★目指す学校像（ビジョン）								① 生命尊重の精神を基盤とした、自他の生命を大切にせる教育の推進。							
【めざす児童・生徒像】								② 確かな学力の定着と新たな学びの創造。							
【めざす学校像】								③ 地域とともに創る教育の推進。							
【めざす教師像】								④ からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上。							
								⑤ 多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育の推進。							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策						
				評価点	取組指標		評価点			成果指標					
いのち	○児童が教育活動を通して生命の尊さや生きる喜びについて実感し、考えを深めることで、自他の“いのち”を大切にしようとする意識を高め、行動できる豊かな人間性の育成を図る教育を推進する。	●「生命の尊さ」を実感し、自他の生命を大切にしようとする思いや考えをもつことができるにする。 ●一人一人の児童理解に努め、児童の思いに寄り添い、児童のよりよい成長を目指す教育を実践する。 ●ふれあい月間やいじめアンケート等を活用して、つらい思いや、苦しい思いをしているケース等を拾い上げ、学校いじめ防止基本方針に基づき、スクールカウンセラー等を活用し、対応、指導の充実を図る。 ●危機管理・安全指導計画に基づき、学校、地域における安全確保の徹底と児童自身の安全に関する意識の向上を図る。	◎「いのちの学習」全体計画、各学年の「いのちの学習」年間指導計画に基づき、各教科、道徳、行事等で計画的に教育活動を実践し目指す児童像を実現していく。PDCAサイクルに基づき、改善を図るとともに、創意工夫のあふれる「いのちの学習」を推進する。 ◎「特別の教科 道徳」の授業を年間計画に沿って、意図的、計画的に実践し、「考え、議論する道徳」の授業に取り組み、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	3.3	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.1	4	100%の児童が「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.50 ・今後も「命の大切さ」「友を思う心の大切さ」についての学習を進めていただきたい。	成果指標：3.1 昨年度同様、学校便りや全校朝会で、“いのち”の尊さについて、保護者・地域・児童に伝えてきている。年間指導計画に沿って、命の大切さについての指導を繰り返し行っている。今後も指導を工夫し、自他を大切にせる心情を育み、豊かな心の醸成をすすめていく。				
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた。						
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた。						
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた児童が80%未満だった。						
			◎「いのちの尊さ」を考える視点に立ち、児童の安全を守る安全点検、通学路点検、防災対策、交通安全教室、自転車安全教室、火災や地震・不審者対応等の避難訓練、セーフティ教室、防犯教室、地域安全マップの作成、薬物乱用防止教室等の取組、児童虐待防止研修セットの活用、情報モラル指導や月1回の安全指導等を計画的に行い、安全管理と事故防止の徹底を図る。	3.3	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.2	4	100%の児童が「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.71 ・児童の「いのち」を守る観点から、交通事故の防止について考えたい。通学路では、児童はよくルールを守っている。情報を正確に聞き取り、自らの判断で命を守る行動ができるように訓練を継続していく。また長期休業前には、日野警察と連携し、安全指導を実施する。	成果指標：3.2 様々な教育活動を通して、「一つしかない”いのち”」を大切にせる心情を育んでいくようにする。特に避難訓練では、児童はよくルールを守っている。情報を正確に聞き取り、自らの判断で命を守る行動ができるように訓練を継続していく。また長期休業前には、日野警察と連携し、安全指導を実施する。				
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた。						
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた。						
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた児童が80%未満だった。						
学び	○基礎的、基本的な知識、技能の定着と学ぶ意欲の向上、思考力、判断力、表現力等の資質や能力の育成を図る。	●基礎的、基本的な知識・技能の習得と、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力の育成を図る。 ●授業創造プランと放課後補習教室「けやき教室」の活用を図り、確かな学力の定着を推進する。 ●児童が学びたい、追究したいという気持ちをもちながら、一人一人の力を最大限に伸ばしていくことができる教育活動の推進を図る。 ●児童が自ら表現したいと思う授業を目指して、児童の思いや考えを引き出す学習指導の工夫を推進する。	◎各教科、領域等の年間指導計画に基づき、教育活動を意図的、計画的に推進する。 ◎授業のねらいを明確にし、ねらいを達成していくために導入、発問、授業構成、教材準備、板書等に創意工夫を図る。 ◎基礎的、基本的な知識・技能の定着のために、習熟の程度に応じた指導や補習学習、繰り返し学習等、一人一人の児童の実態に応じた指導を行っていく。 ◎児童が自分の考えをもち、話し合い、深め合うことを通して、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。 ◎児童が自ら課題を見付け、探究的に調べ、考えを深め合って解決していく問題解決学習の充実を図る。	3.2	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2.9	4	100%の児童が「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.50 ・教員が児童に対し、いかに理解をしてもらうかを考えながら授業を行っている姿が見られる。 ・児童は落ち着いて授業を受けている姿が見られる。	成果指標：2.9 教員は教科指導について、学習のねらいを達成するために、教材研究や教材の工夫を取り入れた授業を心掛けている。令和2年度から始まる「主体的・対話的で、深い学び」が充実するよう、学習形態についても創意工夫を取り入れながら、「できる」「分かる」「楽しい」授業を展開する。				
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた。						
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた。						
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた児童が80%未満だった。						
			◎「協働的な学習を通して自分の考えを深めることができる児童の育成」を研究主題に、言語活動の工夫を通して、言語を活用して自分の考えを表現し、他者と伝え合うことを通して、学びを深めることのできる児童を目指していく。各分科会で児童の実態に応じた手立てを設定し、各学年の児童の実態を踏まえ、研究授業、日々の実践等を通して取り組む。 ◎教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」等の資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習の充実を図る。	3.2	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2.9	4	100%の児童が「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.43 校内研究にて、新たなツールを活用し、児童の言語力や会話力のアップに結び付けするなど、児童のやる気を上げる活動を積極的に実施している。	成果指標：2.9 「主体的・対話的な学習を通して自分の考えを深めることができる児童の育成～言語活動の工夫を通して～」を研究主題に、見通しをもって課題解決に取り組み、言葉で伝え合って学びを深めることができる児童の育成を図る授業を積み重ねてきた。対話を深めるためのスキルの習得が課題として挙げられたことを受け、今後も交流を通して、自分の意見を伝え、聞き、深める学習が展開できるように、教員の教科指導技術を高めていく研究・研修を行っていく必要がある。				
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた。						
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた。						
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた児童が80%未満だった。						
地域	○一人一人の児童に「確かな学力」「豊かな人間性」「健康、体力」の生きる力をバランスよく育んでいくために、学校、家庭、地域社会が協働した教育活動を推進する。	●地域の自然環境や学校支援ボランティア、専門家等の人材を活用し、自然体験、生活体験、本物体験等の豊かな体験活動を実践し、児童が実感的に学習する、豊かな学びを創意工夫する。 ●学校運営連絡協議会や保護者アンケート等の外部評価を活用し、家庭や地域の学校に対する多様な思いや願いを受け止め、学校教育の充実、改善を図る。 ●児童が地域に出て、地域の方々と活動することを通して、自己有用感を感じたり、地域で様々なことを感じ、学び、自分の生き方を考えたりしていけるようにする。	◎児童が豊かな学びを体験できるように、各学年、各教科等の年間指導計画等に基づき、外部専門家や学習支援ボランティア等を活用した教育活動を企画し、推進する。 ◎児童が学ぶ楽しさ、おもしろさを実感できる体験学習等ができるように、地域の自然環境やボランティア、専門家等の人材活用を図り、創意工夫した授業実践を行う。	3.3	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.1	4	100%の児童が「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.79 ・様々な体験的教育の取組を評価する。	成果指標：3.1 地域の外部人材を活用し、自然体験、生活体験、本物体験等の豊かな体験を取り入れる学習を行っている。学ぶ楽しさを体感できている児童が多いことから、今後も児童の主体的な学びにつなげていけるよう、指導の工夫や自己の振り返りなど、キャリアに繋げていく工夫を取り入れながら進めていく。				
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた。						
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた。						
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた児童が80%未満だった。						
			◎開かれた学校づくりを一層推進するため、学校の教育方針や実践活動等を広く学校ホームページや学校便り、学年便り等で発信する。 ◎児童が、地域やPTAのボランティア活動に参加し、社会に役立つ経験を通して、自己有用感を感じることができるようにする。 ◎児童が、地域の人とともに活動することで、社会性や地域に対する郷土愛を育む。	3.0	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2.9	4	100%の児童が「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.43 ・地域との交流ができています。学校サポーターの活用などがスムーズにできています。 ・自己有用感是非常に大切にしたいことと考える。大人を含む他者と体験する機会を増やしてもらえれば、良いと考えます。今後の取組に期待する。	成果指標：2.9 情報の発信については、学校行事等に合わせ、適宜発信している。地域での体験活動については、学校を出て、地域に貢献する活動を取り入れ、社会に役立つ本物の活動・経験を行っていく。地域の一人としての自覚と郷土愛を育ませるために、自己有用感を大切に活動を取り入れていく。				
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた。						
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた。						
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた児童が80%未満だった。						
健康・体力	○からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上を図る。	●オリンピック・パラリンピック教育を推進し、体育授業の充実を図る。 ●自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。	◎意図的に多様な運動を一定期間重点化し、アクティブタイム等日頃から児童が運動に親しむ機会を設定することで、日常的に体力向上と健康増進を図る。 ◎家庭や地域と連携して、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立、創意工夫を凝らした食育の充実を図り、生涯にわたる健康づくりの基礎をつくる。	3.1	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2.9	4	100%の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.43 ・学校行事（運動会や学芸会など）を通して、子供たちの一生懸命さが現れていてよい。	成果指標：2.9 年間計画に沿って、健康教育を推進してきている。体力調査では、都平均を下回る種目が多いが、アクティブタイムや一校一取組（なわとびウィーク・持久走ウィーク）を継続することで、休み時間にもすすんで体を動かす児童も多く見かける。食育の面からは朝食の接種率は高く、各学年での食育授業でも児童は関心を高くして授業を受けている場面が見られる。				
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。						
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。						
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた児童が80%未満だった。						
特別支援	○多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育を推進する。	●児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。 ●全ての児童が参加し、分ける喜びを体感できる授業の創造に努める。	◎支援委員会等の組織的な校内体制の充実、ステップ教室やリソースルームの活用、関係諸機関との連携、就学支援シート、かしのきシートの活用を図っていく。 ◎授業のユニバーサルデザイン化と日野スタンダードを基盤にした授業を実践する。	3.3	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.1	4	100%の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.46 ・児童が、やる気が湧いてくる仕組みを工夫していくと一人一人の能力を伸ばすことにつながるようになるので良いと考える。	成果指標：3.1 授業のユニバーサルデザイン化を定着させる。支援を要する児童の対応については校内支援委員会を中心に、組織的に対応していく。今後も学級・特別支援教室・リソースルーム・スクールカウンセラー・巡回相談など、情報を共有化し、よりよい支援につなげられるようにしていく。				
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。						
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。						
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた児童が80%未満だった。						

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。